

8 月 教 育 委 員 会 会 議 録

日時：令和元年8月26日 午後2時
場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和元年8月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>はじめに、本日の会議から新任の穎原委員が出席されていますので、穎原委員から、一言、ご挨拶をいただきたいと思います。</p>
穎 原 委 員	<p>下関から参りました穎原と申します。山口市、下関市、北九州市で医療福祉の仕事に従事しております。小学5年生の男子と小学2年生の女子の父親です。</p> <p>社会の変化やインターネットの普及等により、私の学生時代よりもさらに学校教育の問題が複雑化していると思います。微力につき何が出来るか分かりませんが、教育委員会や関係者の皆様方にご指導頂き、勉強させて頂きながら、少しでもお役にたてるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。</p>
教 育 長	<p>よろしくお願ひいたします。それでは、本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>中田委員と宮部委員、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、議案の審議に入りたいと思います。</p> <p>議案第1号について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教 育 政 策 課	<p>議案第1号「山口県教育委員会表彰規則による表彰について」、御説明いたします。</p> <p>議案書の2ページ、3ページを御覧ください。</p> <p>去る8月1日に山口県立徳山商工高等学校の名和田幸司教諭、山口県立山口南総合支援学校の古谷弘美教諭が、8月7日に山口市立中央小学校の彌源治睦紀教諭が逝去されました。</p> <p>これに伴いまして、この方々が、表彰規則による「永年その職務に精励した者」であるとして、徳山商工高等学校、山口南総合支援学校及び山口市教育委員会から教育功労者表彰の内申がございました。</p> <p>死亡退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が20年以上の者となっております、内申の状況と併せまして、表彰の基準を満たすものでございました。</p> <p>急な退職に対応し、これまでの御功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、「教育長に対する事務の委任等に関する規則」第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、8月1日付けで名和田教諭、古谷教諭を、8月8日付けで彌源治教諭を表彰いたしましたので、御報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます。</p>
教 育 長	<p>ただいま教育政策課から議案第1号について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。</p>

全 委 員	死亡に伴う退職に関する表彰ということでございます。 議案第1号について、承認することとしてよろしいですか。
教 育 長	承認 議案第1号を承認いたします。
教 職 員 課 長	<p>続いて報告事項に入ります。 報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p> <p>お手元の議案資料の5ページを御覧ください。 8月6日に実施要項を発表しました「山口県立学校職員採用候補者選考試験」についてご報告いたします。この試験は、県内就職を希望している高校生等についても、選択肢の一つとして考えられるようにしているところです。</p> <p>実施要項につきましては、県内の高等学校・特別支援学校をはじめ、関係機関に送付し、県教育委員会のホームページにも掲載しました。6ページ以降に実施要項を載せておりますが、ここでは概要を示した5ページで説明させていただきます。</p> <p>まず、「1」の表の一番右側の欄を御覧ください。実習助手は、県立高等学校等において実験実習を行う際に、教諭の職務を助けることを主な職務としており、寄宿舎指導員は、特別支援学校の寄宿舎における児童生徒の日常生活上の世話及び生活指導を行います。</p> <p>次に左側から2番目の欄の「選考区分」を御覧ください。実習助手については、一般選考と、障害者を対象とした選考を実施することとし、それぞれ、普通教科、農業2つの区分、工業2つの区分、そして水産を〔志願区分〕として実施します。</p> <p>中ほどの列の「採用見込者数」をご覧ください。実習助手については一般選考11人程度、障害者を対象とした選考を1人程度の計12人程度としております。内訳については表の通りです。また、寄宿舎指導員は1人程度を見込んでおります。</p> <p>次に「2 受験資格」についてですが、来年4月1日時点で、18歳から49歳の方を対象としております。</p> <p>「3」と「4」についてですが、志願書類の受付は本日8月26日（月）から9月18日（水）までの間で行い、試験は10月20日（日）に山口県セミナーパークで実施いたします。</p> <p>「5 試験の内容」は、普通教科の実習助手と寄宿舎指導員については、教養試験・小論文・面接・適性検査を行い、農業・工業・水産の実習助手については、教養試験・専門教科試験・面接・適性検査を行うこととしております。</p> <p>これらの試験結果等をもとに、総合的に判断しながら人物を重視した選考を行い、「6」の「(1)」にお示ししているとおおり、11月25日（月）に「採用候補者名簿登載予定者」を発表することとしております。</p>
教 育 長	ただいま教職員課から報告事項1について説明がありましたが、御

	<p>意見、御質問はありますか。 実習助手と寄宿舎指導員の採用試験でございますが、特にございませんでしょうか。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。</p>
義務教育課長	<p>今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、先日、概要をまとめた資料をお届けしましたが、本日は、その後の義務教育課での分析結果について御報告します。</p> <p>本調査は、4月18日に悉皆調査で実施され、調査を実施した本県公立学校の学校数及び児童生徒数は、お示ししているとおりです。</p> <p>調査内容として、教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査が行われました。実施された教科は、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学、英語です。昨年度からの変更点ですが、国語、算数・数学については、知識に関する問題、いわゆるA問題と、活用に関する問題、いわゆるB問題を一体的に問う構成で実施されました。また、新たに英語の調査が行われ、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加え、コンピュータを使っての「話すこと」調査が実施されました。なお、英語は3年に一度実施されることとなっています。質問紙調査では、児童生徒に対する調査、学校に対する調査の2種類が実施されました。</p> <p>まず、教科に関する結果について、1ページを御覧ください。平成29年度から都道府県等における各教科の平均正答率は、小数第一位を四捨五入した整数値で提供されていますので、表の下に、全国平均との差を範囲で示しています。これを見ると、小学校では、国語は全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度でした。中学校では、国語、数学は全国平均を上回り、英語は全国平均を下回りました。</p> <p>3ページから4ページには、各教科の領域における全国平均との差のレーダーチャートを掲載しています。3ページを御覧ください。小学校国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において全国平均を上回っています。また、4ページにあるように、中学校数学においては、「関数」において、全国平均を上回っていますが、平均正答率は43.7%にとどまっています。</p> <p>次に、5ページから6ページに、正答数分布のグラフを掲載しています。</p> <p>5ページを御覧ください。小学校国語の正答数分布を掲載していますが、柱で山口県を、点で全国を表すとともに、特徴的な部分を丸で囲んでいます。小学校では、国語は全国平均を上回り、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高くなっています。算数は全国平均と同程度で、全国と比べ全問正答の児童の割合がやや低くなっています。</p> <p>6ページは、中学校各教科の正答数分布です。国語では、全国平均を上回っていますが、正答数の分布は全国と同様になっています。数学では、全国平均を上回り、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高くなっています。今年度、初めて行われた中学校英語についてで</p>

すが、「話すこと」を除く、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3つの領域の正答数を掲載しています。平均正答率は全国平均を下回り、全国平均正答数より少ない正答数の生徒の割合がやや高く、正答数の多い生徒の割合がやや低くなっています。

次に、7ページから21ページに、相当数の児童生徒ができています点や、課題の見られる点について、特徴的な問題を掲載しています。詳細は、お手元の資料を御覧いただきたいと思いますが、課題の見られる問題について、いくつか御紹介します。

8ページは、小学校国語です。公衆電話について分かったことを取り上げて、報告文にふさわしい表現で書く問題で、全国平均が28.8%、県平均が33.9%と、全国平均を上回っているものの、正答率が低くなっています。「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」に課題が見られます。

10ページは、小学校算数です。2つのグラフを比較し、市全体の水の使用量は変わっていないが市の人口が増えていることから一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題で、全国平均が52.1%、県平均が49.7%と、正答率が低くなっています。中学校数学で出題された資料の傾向をとらえ判断の理由を記述する問題の正答率も低く、依然として、特定の学習内容の定着に課題が見られます。

20ページは、中学校英語の「まとまりのある文章を書く」問題です。学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）」の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く問題で、全国平均が1.8%、県平均が1.4%と、正答率が大変低くなっています。与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題が見られます。

教科の結果については、多くの成果も見られますが、中学校英語が全国平均を下回っていること、特定の内容についての知識・技能の定着や、知識・技能を活用して考えたり表現したりすることについては、今後も課題改善のための取組を進めていく必要があると考えています。

続いて、質問紙調査の結果を22ページから41ページに掲載しています。

22ページから32ページは児童生徒を対象に行われた調査の結果です。

30ページを御覧ください。「望ましい状況」としては、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた子どもの割合は、全国と比べて肯定的な回答が多くなっています。道徳の教科化に伴い、各学校における「考え、議論する道徳」の取組が子どもたちに伝わっているものと考えています。

31ページを御覧ください。地域の行事に参加していると答えた子どもの割合や、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると答えた子どもの割合は、全国と比べて肯定的な回答が多く、地域との関わりや子どもの意識に関する設問において、肯定的な回答が多くなっています。やまぐち型地域連携教育の成果が現れたものと

	<p>考えています。</p> <p>この他、多くの設問で、全国に比べて望ましい状況が見られますが、「課題の見られる状況」もいくつか挙げられます。</p> <p>例えば32ページの、将来、積極的に英語を使うような生活をした り職業に就いたりしたいという生徒の割合は全国と比べて低くなっ ている項目の一つです。児童生徒が、グローバルな視点で自分の将来に 夢や希望をもつことができるよう、英語教育のさらなる充実を図るこ とが大切だと考えています。</p> <p>次に学校質問紙の結果についてです。これは各校の校長が回答して います。</p> <p>33ページを御覧ください。「望ましい状況」としては、横断的な 視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成することや、 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確 立など、カリキュラム・マネジメントを行う学校の割合は、全国と比 べて高くなっています。また、41ページのように、近隣等の小中學校 と授業研究を行うなど、連携した教育活動を行う学校の割合が全国 と比べて高くなっています。</p> <p>この他、児童生徒に対する調査と同様、多くの設問で、全国に比 べて望ましい状況が見られますが、38ページの、教育課程の趣旨につ いて、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は全国 と比べて高いものの、前年度より減少しています。</p> <p>以上が質問紙調査の結果の概要です。</p> <p>最後に、42ページには、今回の調査結果を受けての学力向上に向 けた今後の取組について示しています。</p> <p>今後も「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協 働を基盤として、「学校の組織力の充実」、「教員の授業力の向 上」、「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点から、それ ぞれの取組を推進するとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教 育活動の更なる充実を図り、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定 着と更なる向上に向けた取組を推進していきます。特に、下線部の取 組の充実に向けて、適切な実施が図られるよう、市町教委との連携を 一層強化していきます。</p> <p>なお、中学校英語「話すこと」調査において、データが欠損して該 当生徒の採点ができないということが全国の自治体で発生していま す。データ欠損の原因については、学校のICT環境により多様で、 現在文部科学省が検証中です。本県でも21校292人の生徒につい てデータ欠損があり、該当生徒と保護者に対して各学校から説明する こととしています。</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果についての報告は以上です。</p>
教 育 長	<p>ただいま義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、御意見、御質問はありますか。</p>
佐 野 委 員	<p>結果を見まして、英語以外はとても成績が良かったのではないかと 思います。言語能力とか数字の計算とか、数学的な認識をする能力が わりと高いのではないかと感じました。</p>

<p>義務教育課長</p>	<p>資料には都道府県別の順位って出てないんですけど、民間で公表される数値を見たら、小学校全体では10位以内、中学校でも上位につけてらっしゃっているんで、わりと成績はよかったのではないかと感じています、いかがでしょうか。</p> <p>全国と比較することに関して、一部報道で正答率順に並べているところもありまして、お話のとおり、国語と算数・数学につきましては、概ね上回っているという良好な結果であったと思っています。そのように記者発表もしましたけど、マスコミからはどうしても下回った方を注目され、新聞の見出しは英語が下回ったことを強調されました。</p> <p>国語、算数・数学につきましては、これまで現場を中心として積み重ねてきた成果が表れてきたと思います。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>そのあたりは、確かに報道では出てなかったですけど、やっぱり良い成績だったのを子どもたちの達成感や肯定感に結びつけて、やる気のスイッチに触れることができないかなと少し感じました。来年度どうなるか分からないんですけど、今年の結果は子どもたちを褒めるきっかけにして、力を引き出すことができないかなと思います。</p> <p>英語について。山口県は実業系の高校が充実している関係で、逆に早い段階から就職について考えているお子さんが多いと思います。今、大学教育で英語が重要になっているので、その辺で動機づけが弱いのかなと感じております。ただ、実業系でも英語が必要ではないと思えない。先日の「全国産業教育フェア山口大会」で、JAXAの宇宙飛行士大西卓哉さんが、英語は必要という話をされていた。理工系や実務系の方でも英語が必要な場面は必ずあると思うので、その辺にも目を向けてもらうのが必要ではないか。</p> <p>そういうのも含め、自己肯定感に成績の良さを結び付けるのは良いかなと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>成績については、また市町教育委員会を通じてきちんと子どもたちに伝わるよう考えていきたい。確かに、良い成績はやる気が上がると思います。</p>
<p>小崎委員</p>	<p>最後の「今後の取り組みについて」の「学校・家庭・地域の連携力の強化」のところで、一番初めに、学校運営協議会に関する箇所があります。この夏休み、萩市の小学校の学校運営協議会に参加させていただいたとき、調査を受けて自分達の学校の学力についての報告がありました。「拡大学校運営協議会」という会では年1回、先生方全員と学校運営協議会の委員が話をしますが、報告を受けて、学校でどういうふうに指導すればいいのかをグループに分かれて議論していました。とても良い取組だなと思いました。</p> <p>他の学校運営協議会では報告だけで終わることが多いのですが、報告を受けて地域の人たちがどう感じるか、どのように子どもたちに力を付けさせるかについてのアイデアが出る取組は続けていただきたいなと思います。</p>

佐野委員	<p>後半の質問紙調査について。毎年言っているのですが、いじめについての認識が良い状態で安定している。全国に比べて「あってはいけない」「やってはいけない」という認識が高いのですが、その通りかと言われると「多少している」。継続していじめについて考えて、子どもたちが自主的に「あってはいけない」「やってはいけない」という認識を持つように御指導頂きたいとお願ひします。</p> <p>もうひとつ、「読書が好き」という比率が落ちてきている。今、情報が身の回りにあるのですが、情報の正確さや裏付けされた情報の強度というのは、今でもしっかり作られた本の活字からの知識が優れていると思う。ただ、情報を取得する方法は急速に変化していると思うので、子どもたちがどんな手法で、どの程度正確な情報を得ているのかを把握して頂いて、時代に応じた学習手段のベストミックスを考える必要もある。</p>
義務教育課長	<p>今、お話にありました2点に関しては課題としてとらえているところ。特に「いじめは絶対いけない」ときっぱり肯定する子どもたちがわずかながら減っているので、様々な機会と一緒に考えて伝えていく必要があります。</p> <p>読書につきましても、お話のとおり様々なメディアがある中で、学校や市町の図書館を活用して「読書が好きだ」と思える子どもたちを増やすことは大切なので、様々な心がけを進めていきたいと思ひます。</p>
中田委員	<p>実業系の高校から大学に進学する人もいるし、やっぱり比率としては大学への進学者が多いと思う。どうしても実業系高校の学生は、「あまり英語を知らなくても食べていける」ということで力を入れてなかったかもしれないが、これからの時代は多くの外国人が入国し、永住する可能性が高くなっている。これまでの政策では入国しても5年以内で帰国することがあったが、多くの産業領域での人手不足の発生がきっかけで、家族も含めて日本に住めるように政策が変わっている。英語の必要性は強いと思ひます。</p> <p>大学でも今、新しい学部として国際総合科学部を設置し、5年目の今年、初めての卒業生が出た。この学部では2年次の1年間、英語圏の国に行って授業を受けるという義務が課せられている代わりに、その国からの学生100人が常時いる。留学後の学生たちはほぼ英語の授業だけを受けることになるが、希望者は経済学部などの他学部で行う英語の授業を受けられる。他学部でも以前より英語の授業の増加が望まれており、例えば大学院の経済学部では授業を全て英語で行う「東アジアコース」という領域もある。大学での英語の重要性はますます高まっている。</p> <p>社会が国際化する中で日本企業に外国人が入社し、共通語として英語を使うことを表明するところがたくさん出てきている。これまでのように「英語が必要だ」と言われても、一般的には知らなくても仕事するには支障がなかったのが変わってきています。今後は小中高の授業を提供するに当たって、子どもたちに先生たちがそのことを伝えて</p>

	いく必要がある。
教 育 長	確かにその通りですね。各学校の段階から話をして、認識を変えていきたいと思います。
佐 野 委 員	<p>26ページにある「先生が良いところを認めてくれると思う」というところについてですが、全国平均と比べると高い数字が出ていますが、あてはまるお子さんは若干減ってきています。おそらく自己肯定感の部分じゃないかと思います。その下にある正答率との関係を見ると、直接の関係は分からないが相関関係はあると感じます。</p> <p>今、働き方改革で先生方も大変でしょうけど、時間があれば子どもたちをしっかりと観察して頂いて、小さな実績でも褒めてあげて、子どもたちに達成感や自己肯定感を持てるような場面をたくさん用意して頂けたらと感じます。しっかり現場に目を向け、子どもたちの状況に時間を使っていただきたいと思います。</p>
教 育 長	先生から褒められる・認められるということは嬉しいと思うので、是非その辺気を付けていただきたいと思います。
教 育 長	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	次回の教育委員会会議は9月12日（木）午後3時からを予定しております。よろしく申し上げます。